

日本での交換留学

韓国芸術総合学校

キム・イェジ

お茶の水女子大学に到着した日、校内に咲く桜を眺めながら、これからの日本での生活に期待と不安を感じたことを今でも覚えています。私は何事も挑戦してみようという気持ちで留学生活を始めました。私は韓国芸術総合学校舞踊理論科の大学院生でお茶の水女子大学院比較社会文化学専攻に初めての交換学生として交流しました。このような貴重な機会を得て一学期間留学し、お茶の水女子大学で舞踊について多く学ぶことができ、様々な経験ができ光栄でした。

私が日本へ留学を希望した理由は、ダンスに関する様々な視点を学び、視野を広げたいと思ったからです。私が興味を持っていたのは、日本ではダンスを通してどのような教育やプログラムが行われているのか、ということでした。積極的に演習の



授業に参加することで、日本でダンスについてより深く学ぶことができると思い、動作学実験演習の授業とスポーツ健康実習(文B)の授業を受講しました。

まず、動作学実験演習の授業では、EMG、超音波、床反力計、そして動作解析システム「Frame-DIAS 6」など様々な実験を行い、実験データをもとにレポートを書きながら、各身体の部位がどのような役割を持ち、どのようなメカニズムで動いているのかを学ぶことができました。また、自分の身

体や人間の身体についてより深く理解できる興味深い時間でした。

スポーツ健康の実習授業では、ヨガ、ランニング、そしてストレッチなど様々な運動を通じて、個人の身体に合ったトレーニング方法を学びました。特に期末レポートとして、プログラムを考え企画し実行した体験は私にとって有意義で勉強になる時間でした。

また、指導教授である水村先生主催のパーキンソン病患者のためのダンスワークショップや高齢者ダンス教室に参加し、色々な方々と一緒に体をほぐしたり、踊ったりすることで、ダンスが私たちの生活に与える影響力について身をもって感じる事ができました。このような貴重な経験を提供して下さったことに感謝しています。



ます。

自分の専攻の正規科目以外にも、留学生を対象とした日本語の文法や文化を学ぶ授業にも参加し、日本語能力の向上や、日本の文化や人々についても理解が深まりました。また、茶道部に入って活動したり、留学生活で知り合った友達と横浜で音楽フェスティバルに参加したり、祭りで盆踊りを踊ったことなどが忘れられない思い出になりました。そんな珍しい経験をすることができて幸せでした。

最後に私の半年間の交換留学を無事に過ごすことが出来るよう手伝って下さった先生方、学生さんに感謝を申し上げます。

特に毎月振り返りシートを読んで、良い思い出になるイベントなどを教えて下さった水村先生、日本での生活にうまく適応できるよう、いつも

熱心に指導して下さった留学生ホームルーム授業の萩原先生, 国際部の大野先生に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。